

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 浅川 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
<input type="radio"/>	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

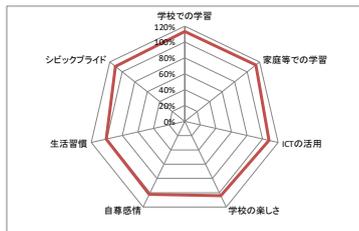
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	福岡県の平均正答率は概ね上回っている。(3)我が国の言語文化に関する事項は、平均正答率を下回っており、改善が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくてきた問題	(2) 情報の使い方に関する事項	
	努力が必要な問題	(3) 我が国の言語文化に関する事項	
算数	全体的な傾向や特徴など	福岡県の平均正答率は概ね上回っている。Dデータの活用に関する事項は、平均正答率を上回っているものの課題が見られたので、改善が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくてきた問題	A 数と計算、C 変化と関係	
	努力が必要な問題		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
・	「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、88%の児童が肯定的な回答をしている。
・	「授業でICTをどの程度活用しているか」に99%を超える児童が肯定的に回答している。
・	「困りごとや不安があるときに、先生や大人に相談できますか」という問いに課題が見られた。生活アンケートや面談を通して、児童の困り感を早期に把握できる環境づくりを行う。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

朝の活動や毎週水曜日ののびのびタイムを活用して、基礎的・基本的な学習内容の補充を行い、学力の底上げを図る。また、学力向上に向けての取組にも力を入れている。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭生活習慣や家庭学習においては、Tetoruや手紙で保護者へ啓発を行う。また、長期休暇では、学校全体で約束事を決め、保護者へ周知する。